

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中央 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

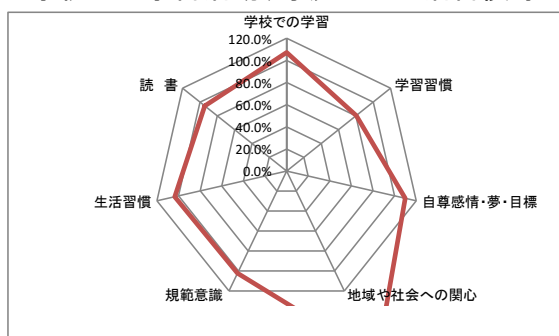
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識だけを問うような単純な問題は正答率が高かったが、情報量の多い文章から必要な情報を読み取ったり、複数の分掌を総合的に考えて答えを導き出すような知識の活用の問題になると正答率が低くなっていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ 封筒の書き方を理解して書く	
	努力が必要な問題	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	
数学	全体的な傾向や特徴など	簡単な計算や知識の活用などは正答率が高く、グラフや表など資料を読み取ったり、式の目的や証明の意味など論理的思考が必要な活用問題は正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	簡単な場合について、確率を求めることができる 反例の意味を理解している	
	努力が必要な問題	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している 与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	
英語	全体的な傾向や特徴など	接続詞の問題や、3人称単数の英文を書く問題の正答率が低く、リスニング問題の正答率は高かった。文法や長文の問題の正答率が低く、会話的な内容の問題の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	
	努力が必要な問題	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる 文の中で適切に接続詞を用いることができる 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・読書に関する項目と学習習慣に関する項目で全国平均を下回ったものの、それ以外の項目では全国平均を上回った。学校での学習についての項目では全国平均を上回っているため、家庭での学習習慣を確立させたい。
・「地域行事に参加していますか」という質問に対しては全国平均を大きく上回り、自分の住んでいる地域への関心の高さや郷土愛があることを示している。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

国語、数学、英語に共通して、身につけている知識を活用したり、情報量の多い文章の内容を正確に読み取り、必要な情報を見つけたりする問題に取り組む必要がある。また、読解力を高めるために全校で読書に関する取組を推進したい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

授業以外で学習する時間が1時間未満の生徒が多いので、毎日取り組めるように各教科から課題を出すように体制を整える。 また、家庭でも声掛けができるように啓発していく。